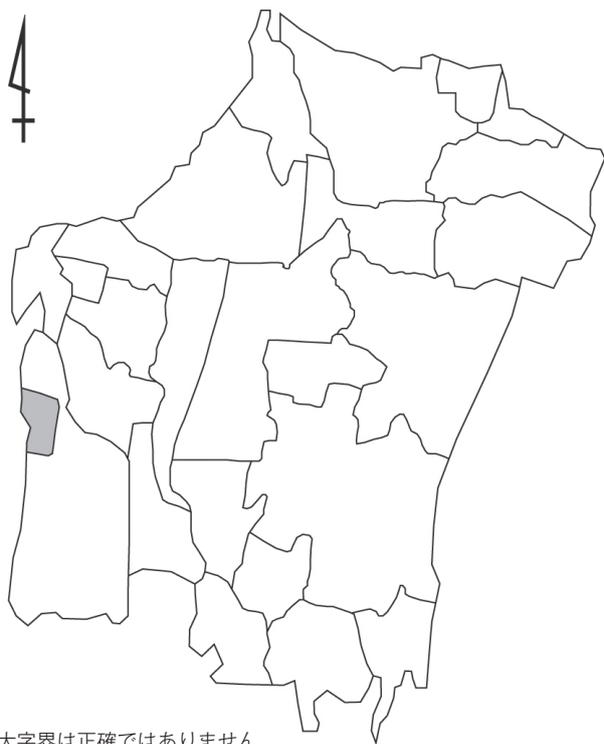


郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史

天神町

天神町は、町域の西部、JR石橋駅東側に位置しています。宇都宮線を挟んで下野市と接しています。平成10年、石橋駅東土地区画整理事業により大字多功字天神町・字天沼・字間の田・字西ノ内を分離して誕生した比較的新しい行政区画です。



※大字界は正確ではありません。

地区は、閑静な住宅街であると同時に、町の西玄関口として栄え、毎日多くの人々が行き交っています。余談ですが、石橋駅は明治18(1885)年7月16日に開業し、当時の上野―石橋間の上等車運賃は3円10銭でした。

江戸時代、天神町は多功宿の北側にあり、南北に「閑宿

多功道」と呼ばれる日光街道の脇街道が通っていました。江戸時代に描かれた『分間延絵図』には、多功宿の様子とともに天満宮が描かれています。

石橋駅から東に300mの場所に多功天満宮は鎮座しています。天満宮は、平安時代の貴族・菅原道真を祀った神社の総称であり、学問の神様として天神様の愛称で親しまれています。福岡県の太宰府天満宮や京都府の北野天満宮が有名です。

多功天満宮はとても由緒ある神社であり、創建は今から千年も昔のことです。社伝によると、寛弘4(1007)年に京都北野の僧・祖先が北野天満宮より神霊を勧請し、神殿楼門を建てたといわれます。ちなみに、かつて境内には八つ房の梅の古木があったそうです。梅は天満宮の神紋にもなっています。

さて、天満宮は考古学的にも貴重な遺跡として知られています。ここは多功遺跡という名称が付けられており、発掘調査を行ったところ奈良

平安時代の瓦や土器がたくさん出土しました。また、社殿前や石段下、参道の東側には建物の基礎となる凝灰岩製の礎石が残されており、建物の基礎とみられる方形の土壇も確認されています。

ここは瓦が多く出土することから寺院跡と考えられており、「多功廃寺址と礎石」として町の指定文化財になっています。しかし、これまでの発

掘調査成果から、現在では奈良平安時代を中心とした河内郡役所に関連する遺跡と考えられています。また、北方約3kmにある国史跡上神主・茂原官衙遺跡との関連も気になるところです。

今も昔もたくさんの人々が行き交う天神町。梅の花が咲く頃に天満宮を訪れてみたいものです。



多功天満宮境内